

令和6年4月の大阪森林便り

目次

4月の木の話 木と木をくっつける

- (1)  住宅集成材原料 6%高 1~3月対日価格
- (2)  バイオマスに火災リスク 経産省、全国に点検指示
- (3)  国産針葉樹合板、1%安 東京地区 住宅向け需要低調
- (4)  花粉「高リスク地域」で人口増
- (5)  北米産木材、対日 2%高 4~6月 コスト転嫁強まる
- (6)  国産合板在庫 2月末 10.1%増 住宅向けが停滞

4月の木の話 木と木をくっつける

*伐採直後の濡れた木材を接着しようとしても強い接着層ができず、良い接着力を発揮することはできません。

*木材が乾きすぎていると、接着剤が水分とともに木材内部に浸透しすぎるため接着力は低くなります。

*接着するときの木材の適正含水率は、一般的に 7~15%です。

*木口面同士の接着では、板目面同士の接着力よりも低くなります。

*木口断面の隙間が多いので有効な接着面積が少なくなります。

*木口面から内部への接着剤の過剰浸透によって接着層が形成されにくくなります。

*接着力は限りなく薄く、そして、均一な接着層ほど高くなります。

(木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ 100 問より抜粋引用)

(1) 住宅集成材原料 6%高 1~3月対日価格

欧州産、原燃料高響く

*集成材の原料ラミナが値上がり。

*欧州産の 1~3 月期の対日価格は、前四半期に比べて 6%高。

*2 四半期連続で値上がり。

*欧州産木材をアジアに運ぶコンテナ船は紅海を経由していましたが、多くが喜望峰経由のルートに変えました。

*日本までの航海日数は、従来より 20 日程度延びました。

*4月以降の対日価格も値上げを提示される公算。

*国内の集成材価格は低迷が続きます。

*2023年7月から横ばい。

(2024年3月6日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) バイオマスに火災リスク 経産省、全国に点検指示

*火力発電最大手のJ E R Aの火力発電所で爆発事故が起きた問題で、経済産業省はバイオマス燃料に火災の原因の可能性があるとみて、全国の発電所に点検の指示を出しました。

*木材の端材などを円筒状に押し固めた「木質ペレット」の一時保管場所付近が火元。

*木質ペレットは含水率が高くなると微生物による発酵熱が生じ、発火に至りやすくなります。

(2024年3月7日日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 国産針葉樹合板、1%安 東京地区

住宅向け需要低調

*国産針葉樹合板の東京地区流通価格が1%下がりました。

*2022年6月～2023年5月につけた最高値と比べて20%安。

*主用途の木造住宅向け需要が振るいません。

*メーカーは4月から物流コストや人件費が増えるため、商品価格引き上げを検討。

(2024年3月14日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(4) 花粉「高リスク地域」で人口増

1980年代より730万人多く

飛散シーズン、30年で2週間長く

*日本の総人口は1980年からの40年間で900万人増えましたが、増加分の8割は花粉高リスク地域に集中します。



*1980～1990年代は、高度経済成長期に植林されたスギが花粉を活発に飛ばす樹齢30年以上を迎えた時期。

*日本の国土面積の2割はスギとヒノキの人工林。

*スギ花粉のシーズン開始は1990年代には2月下旬でしたが、2020年代には2月上～中旬と2週間ほど早まりました。

*スギ花粉が落ち着く3月下旬からはヒノキ花粉が飛びます。

*スギ花粉症の人の7割はヒノキ花粉症。

*ヒノキの花粉量は4月上旬のピーク時で1990年代の7倍、2000年代の3倍。

(2024年3月25日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(5) 北米産木材、対日2%高 4～6月

コスト転嫁強まる 住宅販売、低調続く恐れ

*ツーバイフォー住宅の壁などに使う北米産木材の4～6月期の対日価格が、1～3月期に比べ2%高。上昇は2四半期ぶり。

*カナダの山火事の余波で供給量の減少が続きます。

*7～9月期もカナダ側のサプライヤーは値上げを求めてくる見込み。

*1月の木造住宅の新設着工戸数は前年同月を2.3%下回りました。

*2022年4月以降マイナスが続きます。

*木材価格の上昇は住宅販売価格の押し上げ材料となります。

*木材価格は2021年ごろの世界的な木材高騰局面が落ち着いて以降は下落傾向。

*下げ止まりから再び上昇基調になれば、住宅需要の低迷が続く要因になる可能性。

(2024年3月27日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(6) 国産合板在庫 2月末10.1%増 住宅向けが停滞

*国産針葉樹合板の2月末の在庫量は、前月比10.1%増。

*増加は3か月連続。

*国産メーカーはフル稼働時の8割程度の生産。

*2月の生産量は前月比0.3%減少。

*出荷量は同6.6%減。

(2024年3月30日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

